



かわらばん

市民皆消防

消防団長 大河原康行

自分達の街は自分達の手で守る。これは消防の基本理念であり、団のみならず住民一人一人が自覚し、全市民が消防人であっていただきたいと思えます。

「常備消防を充実させれば消防団は無用である」という意見も聞きますが、消防の効率化だけでは代えられないものがあります。火災・消火の問題については常備消防が発達して行けば消防団に代わる事ができるかも知れません。しかし、初期消火・予防活動、山林火災・地震の時の非難誘導等地域に密着した活動ができるのは、市内全域から集められ普段から訓練をつんだ消防団員だと確信します。また、地域住民の協力があってこそ住みよい飯能市になるのだと思えます。

消防団三七五名は一丸となつて期待に応えられるよう努力する所存です。これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。

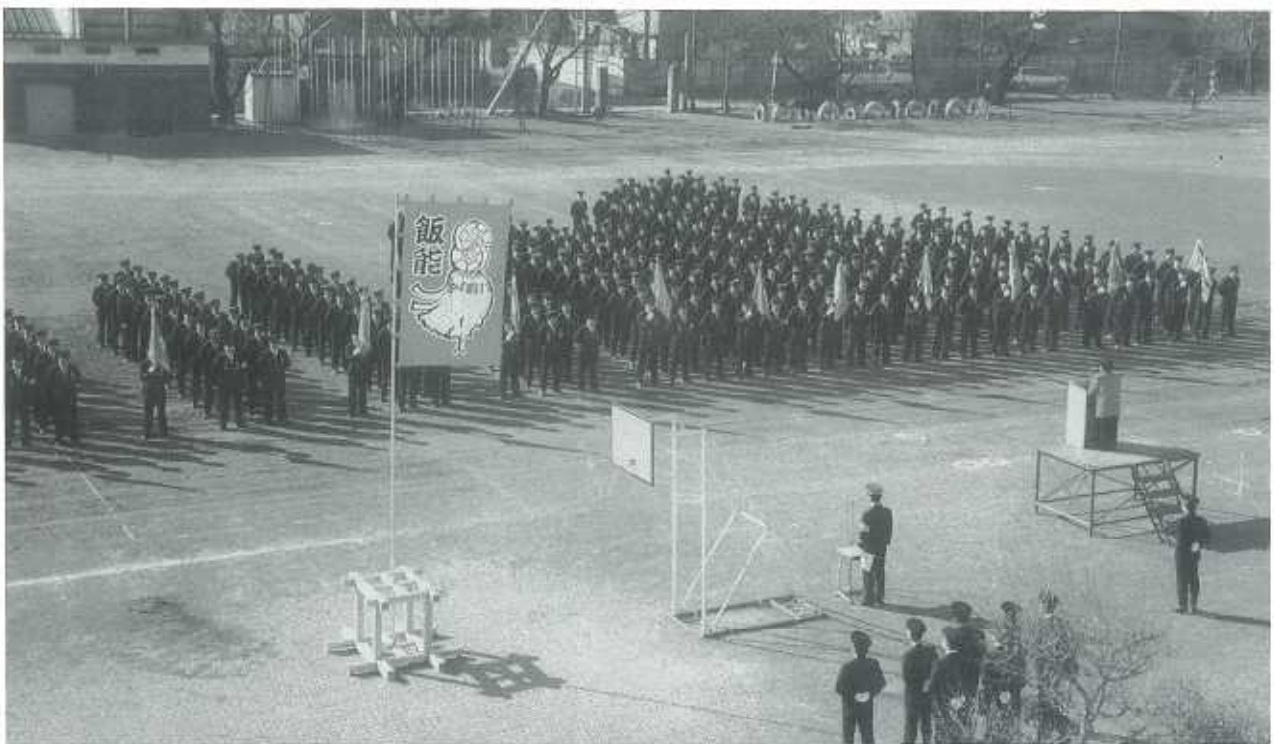
がんばれ消防団

消防長 田中博

毎年、どこかで起こる地震と噴火活動。そして、火災や風水害等。そんなとき、決まって活躍を報道されるのが消防団です。災害に立ち向かう団員の姿は強い信頼に満ちています。

飯能消防団は、昭和二十二年八月一日結団し、市民生活の安全を守る防災機関として、火災の消火・大雨時の警戒など、市民の生命と財産の保全のため消防署と共同して活動しています。

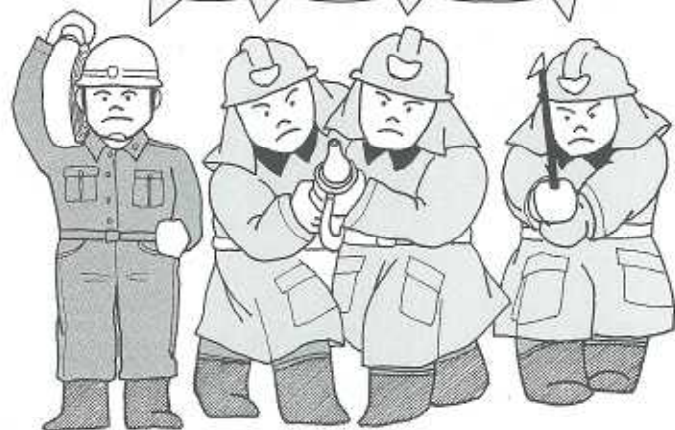
今、高齢化社会の中で、豊かなゆとりを求める社会は、安全が約束されなければなりません。市は将来にわたり、市民防災の要衝として防災センターを建設しています。これに応え消防団は、地域密着性の特性を生かし、施設の利用、防火防災の対話を広げ、きめ細かな火災予防運動を展開することを期待されます。地域防災リーダーの役割を担う消防団。ご躍進をお祈りします。



▲ 特別点検に出動する消防団員。平成5年12月1日 飯能第一小学校校庭。

まい何分団？

飯能は
わたしたちが守ります！！



第一分団 21名

私たちは、飯能地区の原町・前田・中山を担当しています。本年は地域住民の皆様は初期消火の大切さを知っていたために、消火器を使って火を消す体験をしていただきました。初めのうちはあわててしまう人が多く見られましたが、次第に消火姿が板についてきて、思わず勧誘したくなるような人もいました。「もしもの時にあわてずすみそうだ」との声をいただきました。

第二分団 24名

私たちは、飯能地区の二丁目・二丁目・柳原を担当しています。消防署との協力による防災活動をはじめ、地域への啓蒙活動も行なっています。最近では市民の皆様は消火器を使つての初期消火を体験していただきました。飯能祭では警備を担当し山車について交通整理を行なったりもしています。郷土愛護の精神であなたも消防団へジャンプ！

第三分団 33名

私たちは、飯能地区の三丁目・河原町・宮本町・大河原・本郷を担当しています。何と言っても持ち前の明るさとチームワークを売り物に住宅密集地から山林まで、愛する故郷を災害から守るため訓練に励んでいます。毎年研修旅行やゴルフコンペなどを開催して親睦を図っています。職業や年齢の枠を越えて、ピカイチのチームワークは磨きがかかる一方です。地域の皆さんご安心を！

第四分団 25名

私たちは、飯能地区の永田・小岩井・久須美・小瀬戸・永田台を担当しています。訓練などの出動のほか親睦旅行も実施しています。今年からは宿泊先でボーリング大会を開いたり、バギーに乗ったりして楽しみました。また伝統芸能の獅子舞に数名の団員が参加して地域の活性化に取り組んでいます。地区内に火災等が少ないのは地域の皆様の防災意識の賜物と感謝しています。

第五分団 40名

私たちは、南高麗地区を担当しています。岩淵から上直竹上分まで東西に細長くさまざまな顔を持っています。歳末警戒の夜、標高の最も高い細田地区に上がると、新宿の高層ビル群まで広がるすばらしい夜景を見ることができ、寒さを忘れるほどの美しさで、とくに新入団員は感動するようです。また青梅市の成木・小曾木地区の消防団とも交流を図り相互の防災に努めています。

飯能消防団役員

団長	大河原 康行
副団長	金子 堅三
本部分団長	小久保 勝弘
第一分団長	柿沼 敏夫
第二分団長	田淵 誠太郎
第三分団長	加藤 順徳
第四分団長	井上 順徳

あなたのため



第三分団長	横山和也
第四分団長	細田隆行
第五分団長	木崎秀尚
第六分団長	竹田恵一
第七分団長	鈴木正幸
第八分団長	加治典男
第九分団長	金子稔
第十分団長	加藤幸男

第六分団 38名

私たちは、加治地区を担当しています。

入間川と成木川を挟んで本部と四つの部から編成されています。スポーツを楽しむための市民体育館や阿須運動公園、市内が一望できる美杉台公園などの施設があります。人口増加率が一番高い地区なので火災予防のPRや訓練に力を入れています。他には親睦旅行や加治体育祭への参加、盆踊りやお祭りの警備も行なっています。

第七分団 36名

私たちは、精明地区を担当しています。

地域の皆様とは体育祭・お祭り・盆踊りなどを通じて触れ合いを深めています。訓練は厳しさもあり、楽しさもあると言えるでしょう。研修旅行・ボーリング大会・スキー・家族慰安旅行など楽しい行事もあり親睦を図っています。十月二十三日に四部(浅間・新光)に小型動力ポンプ付積載車が配属され、今後の活躍が期待されています。

第八分団 48名

私たちは、人口急増地域の原市場地区を担当しています。

多くの神社仏閣があり、観光地としても有名な子ノ山・竹寺については、例大祭・大晦日の交通警備をしています。晦日の交通警備をしています。分団内を流れる清流名栗川には四季を通じてたくさんの方が訪れますので、事故防止のため、随時バトロールも行なっています。この他にも地域の皆様に親しまれる消防団をめざし、さまざまな活動をしています。

第九分団 47名

私たちは、東吾野地区を担当しています。五つの部がそれぞれの地元で活動し、地元の皆様と密着し信頼関係を作ることに入れています。

借宿神社のお祭りには消防団員による出し物が恒例となっていて、操法大会の結果や新入団員が発表され、部長を中心にして地元の皆様との交流を図っています。また家族・友人を交えてのバーベキュー大会や旅行などを実施し親睦の和を広げています。

第十分団 53名

私たちは、吾野地区を担当しています。

吾野・西吾野・正丸の三つの駅を挟む広い地域です。なかでも正丸トンネルは県内の国道では一番長く千九一八メートルもありました。ここで毎年県主催の正丸トンネル防災訓練が行われます。本番さながらに交通止めにして、水利を確保し小型ポンプとポンプ車で中継放水を行ないます。終了後バーベキューをしながらの反省会も楽しみます。

救命率向上のために 応急手当を学ぶ

消防本部警防係長 関根昭夫

昨年は大きな災害の多い年でした。そんな時、大きく取り上げられたのが消防団の活躍でした。雲仙普賢岳の噴火災害や北海道南西沖地震では非難誘導・消火救助・津波警戒・水防活動等身を挺して献身的に活動しました。これらはマスコミで大きく報道され、大規模災害には消防団活動が不可欠であることが立証されたと言えます。

いざ鎌倉という時には、まさに自分達の地域は自分達で守るよりほかにはありません。そんな場合、日頃から訓練を積んだ専門家集団としての消防団の活動が欠かせなくなるわけです。

そこで飯能消防団では、予想される大災害等に対応するために、平成四年度から全団員を対象に救命処置を中心とした応急手当講習会を実施しております。この講習会によ

り消防団の活性化と住民に愛される団員の養成も図ります。飯能市は、本年七月一日に

応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱を定め、これに基づく普通救命講習を実施しました。この度技術・知識が基準に達した一七四名の消防団員に対して消防長から普通救命講習終了証が交付されました。今後は、指導員・普及員資格を取得し、地域住



▶今年の秋の第2回普通救命講習。市内四ヶ所で実施した。

民や勤務先の同僚等に対しても指導のできる高度の技術を持った団員の養成も課題となると思っています。

国民生活の利便性が向上した今日では、一端災害が発生した場合の人命に対する危険が増大し、その容態も年々複雑多様化しています。消防団では時代背景に適応した質の高い団員づくりをめざして日夜がんばっています。

消防団に入って

七分団三部 利根川典久

今年の四月に消防団に入ってから半年が過ぎました。組織や活動にもようやく慣れてきました。活動内容としては、車両や器具の点検と管理・火災予防・消火訓練などをして

います。また、消防活動以外では、旅行やバーベキュー、その他いろいろ行っています。行事を通して数多くの仲間ができ、入団する事を不安に思っていた頃が嘘のように楽しく過ごしています。

たのもしい味方

消防本部庶務係長 新井芳久

三七五名の消防団員は、消防職員との交流も活発で意志の疎通も十分です。消火活動はもとより各種訓練など相互に連携して力を発揮しています。人員の少ない消防職員にとって「たのもしい味方」と言えます。消防団員のほとんどが地元出身者なので、消防署員をはじめ市民とは顔なじみが多く、消防行政を進める環境は最高です。

世の中で一番大切なものは、人間の命と財産の保全ではないでしょうか。消防団員の方々は今日も「自分の街は自分で守る」を合言葉に、街の安全のために一丸となって取り組まれています。それぞれの職業を持ちながら市民を大切に思い、そして市民から親しまれ信頼されることをモットーに活動されています。このように地域に密着した消防団員は、市民の皆様にとっても「たのもしい味方」と言えるでしょう。

編集後記

日頃は消防団活動にご協力をいただきありがとうございます。さらに、活動のご理解と新入団員確保等にご協力いただきましたたく広報紙の発行となりました。◆団員活動は、消防本部・消防署の方々の暖かい気持ちに支えられ、訓練・研修・旅行等、苦楽を共にして各分団チームワーク良く活動をしています。◆自分・家族・地域等を守るためどうか勇気を持って消防団活動に挑戦してください、させていただきます。

副団長 柿沼 敏夫
編集委員
本部分団長 田淵誠太郎
第一分団 沼崎 修一
第二分団 大沢 正欣
第三分団 島崎 好司
第四分団 堀口 純男
第五分団 木崎 稔生
第六分団 金子 隆
第七分団 黒米 正幸
第八分団 大窟 信行
第九分団 若林 誠一
第十分団 大河原 弘

題字は吉田行男様にご協力いただきました。